

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

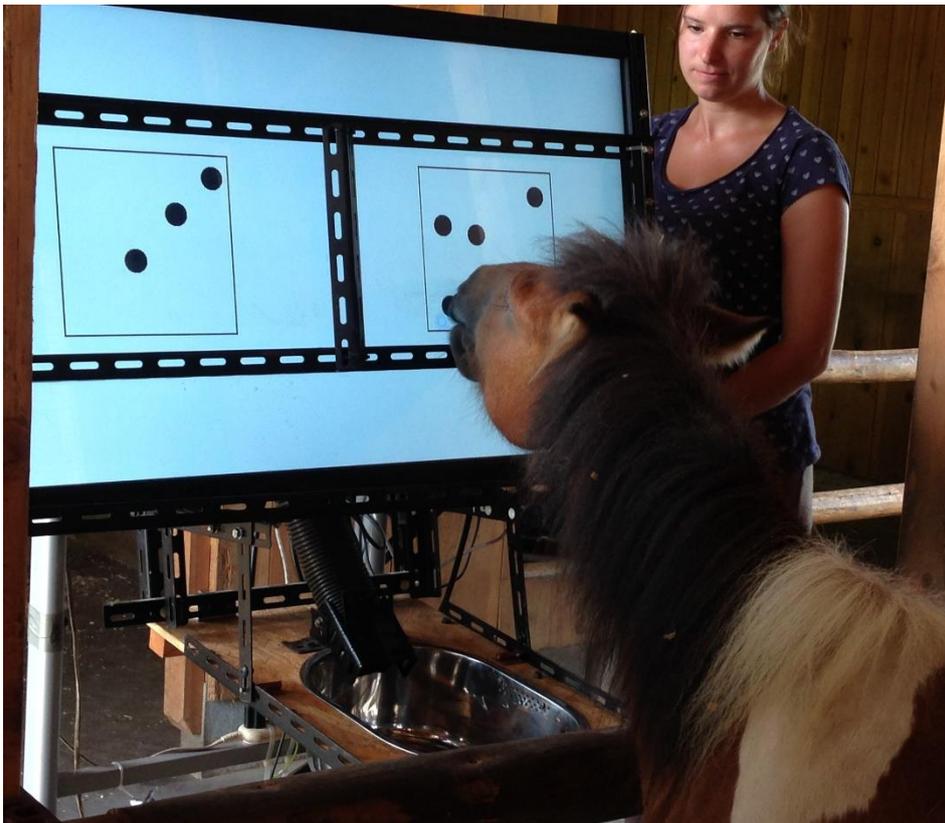
平成 27 年 9 月 24 日	
所属部局・職	霊長類研究所、社会生態分野、修士 2 年
氏 名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
愛知県犬山市、霊長類研究所 岐阜県各務ヶ原、ホースマン
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
比較認知科学実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 8 月 24 日 ~ 平成 26 年 8 月 26 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学霊長類研究所、思考言語分野、ホースマン
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本実習は、チンパンジーおよびウマの認知研究の現場に参加して、彼らの認知機能を引き出す課題に取り組む様子を直接観察することを目的として、京都大学霊長類研究所およびホースマンにて実施された。</p> <p>主な実習内容は、思考言語分野で行われている午前中のチンパンジー認知実験の様子を観察、午後は馬を対象とした認知実験の様子を観察した。実習中は、友永先生をはじめとする研究者の方々への質疑応答の中で、認知実験の内容や意義についての見識を深めた。</p> <p>実習で見学した認知実験は、対象となる動物種のある認知機能を引き出すために設定された課題を与えていた。ここでの認知研究の概要は、例えば、ある動物個体にモニターに映し出される図や数字、その大きさや空間的配置、関係性などについて学習させ、課題が有する因果関係を認知的に結びつける能力をその動物個体の学習過程において分析することである。このような認知実験によって、動物種に発達した認知機能が明らかにされ、野生化における生態的・社会的な側面に対する認知機能の進化的要因の理解に役立つだろう。そして、ヒトと遺伝的に最近縁であるチンパンジーを対象とした比較認知研究は、ヒトに発達した高度な認知的能力の進化過程を明らかにするうえで非常に有効な手段といえる。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



モニターに映し出される課題に答えるチンパンジー



モニターから映し出される2つの画面から、黒丸の数が多いほうを選択する課題をこなす

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

本実習を行うにあたり、友永先生はじめ思考言語の研究者や学生の方々、そしてホースマンのスタッフの方々に大変お世話になりました、誠にありがとうございました。